

令和元年度

洗濯・理容・美容・
浴場業

クリーニングもちづき

クリーニング

代表者名 代表 望月 永和 設立年月日 1989年（平成元年）5月16日
 所在地 〒409-2531 山梨県南巨摩郡身延町角打119番地1
 TEL 0556-62-0562 FAX なし
 E-Mail nagakazz@hotmail.co.jp URL なし
 資本金額 0円 従業員数 6人



代表 望月 永和

テーマ

超デリケートドライ洗濯プログラムの開発とネック工程解消による法衣洗濯の生産性向上

極めて繊細な扱いを必要とする法衣洗濯において、実現困難であった自動化プログラムをメーカーと共同開発し、自動化洗浄のめどが立った。併せて乾燥・アイロン工程の時間短縮を実現し、全国からの法衣洗濯に応えられる体制が構築できた。

南巨摩郡身延町の「クリーニングもちづき」は、町内でクリーニング3店舗とコインランドリー1店舗を運営している。日蓮宗の総本山である身延山久遠寺に近いこともあり、一般クリーニング以外に法衣クリーニングや宿坊（宿泊施設）からのリネン類の洗濯依頼が一定量あるのが大きな特徴で、法衣については他県からの依頼も多い。

望月永和代表によると、法衣クリーニングは和装ならではの多様な生地と色柄、箔、刺繍、樹脂加工があり洗浄が難しい。オーダーメードがほとんどで、洗濯表示タグが付いているものは少ない。加えて、経年劣化に対応した繊細な洗濯、色移りリスクへの対応などが不可欠となる。

「法衣は絹で織られていたり、繊細な装飾が施されていたりする高級な和装ですが、お坊さんにとっては仕事着です。高価な法衣であっても日常的に着用する上に、代々受け継がれてきたような法衣には経年劣化や使用ダメージが生じているものもあります」

一般的な和装に行うデリケートクリーニングであっても、法衣の場合は生地を壊してしまうことがあり、洗浄作業には極めて高い慎重さと技術が要求される。

同店は長年、デリケートな法衣を傷めずに洗浄するため、経験を積んだ者がドライ洗濯機の回転の強弱などを細かく調整しながら稼働させる、独自の「手

動運転」を基本としてきた。ただ、その間は一人が洗濯機に付きっきりとなるため量産化には限界があったという。

今回新たに導入したドライ洗濯機は、同店が行ってきた洗浄のノウハウを洗濯機内蔵の自動プログラムに落とし込み、ボタン一つで再現できるようになった。洗う前に法衣の素材や状態、装飾の有無などを見極め、それに対応したプログラムコードを指示すれば、パート従業員にも法衣洗濯が可能になった。

業務用洗濯機メーカーが開発に協力した。「この洗濯機の内部では洗濯物や溶剤がある特徴的な動き方をしています。この動きによって、生地を傷めることなく汚れをしっかりと落とすことができます」。併設した機械で、使用後の溶剤の汚れを取り除いてくれるので、常にきれいな状態の溶剤で洗えるのも特長だ。

天候やスペースに左右されず衣類を乾燥できる「高回収静止型乾燥機」も導入した。ハンガーにかけた状態で、衣類のダメージを抑制しながら乾かすことができる。回収した洗浄液は水と溶剤に分け、環境に配慮した設計となっている。

新しい「和服用仕上げ台」も導入。和服の縫製工場などで使用されている大型サイズで、従来はその都度向きを変えながら行うことが多い和服のアイロンがけを、一気にこなすことができる。



● 自動プログラムで法衣を
洗浄するドライ洗濯機



● 衣類ダメージを抑制でき
る乾燥機



● 一気にアイロンがけがで
きる和服用仕上げ台

平たんではなかった道のり。突然の悲しみにも、周囲の人に支えられた

これらの最新機器を取り入れ、同店の作業効率は飛躍的に向上。より多くの法衣を受け入れる体制が整った。

しかし、その道のりは決して平たんなものではなかった。望月さんと父・貞彦さんは、法衣クリーニングの自動化に向けて多くの洗濯機メーカーや商社に掛けあったが、難色を示されたという。

「メーカーが開発している既存の洗浄プログラムは洋服に適したものが多く、そもそも着物の洗浄プログラムは少ないんです。うちが長年行ってきた『手洗いに近い洗浄』を自動化するには、プログラムを



● 洗った直後でもシワが少ない

ゼロから構築する必要がありました」。それでも望月さんたちは諦めず、ついに対応可能なメーカーを見つけ出した。補助事業の採択が決まり、父や母、従業員らと喜び合った。

悲しみは突然訪れた。あとは機械の搬

入を待つのみとなった21年4月、闘病中だった貞彦さんがこの世を去った。「計画を始めてから毎日のように父と『機械をどのように動かせばよいか』『どんなメーカーが良いか』を話し合ってきました。事業が採択され、機械が入るのを父は誰よりも楽しみにしていました。実物を見せてあげられなかったのが残念でなりません」

辛い心情を吐露する望月さん。同時に、周囲の人たちへの感謝の思いも口にする。「補助事業の担当者やメーカーの方をはじめ、以前からお世話になっている商工会の方、シミ抜きの師匠など大勢の人に支えてもらい、こうして家業を続けることができています。僕は本当に人に恵まれた人生だなと思いました」



● 法衣が多数並ぶ作業場

安全で、より良い仕上がりのクリーニング方法を追求し続けたい

創業は昭和8年。望月さんの祖父・金正さんは、急速に時代が変化していくなかで「身延のような地方でも、都会と同様に人々の洋装化が進み、華やかな色合いの服を着るようになるだろう」と考え、そのクリーニング需要を見越して同店を立ち上げた。以降、一般クリーニングだけでなく法衣や晴れ着などの難易度の高いクリーニングにも力を入れてきた。

「祖父、父に続き、僕も物心ついたころには家業を手伝いたいと考えていました。強く意識したのは20歳のころです。父がアイロンをかけている姿がすごく格好良くて。一点一点丁寧に、心を込めて作業している様子に胸を打たれました」

都内の大手クリーニング店で5年間修業し、幅広い技術を身に付けた。帰郷後も、業者の駆け込み寺として有名なシミ抜き流派「不入流（いらずりゅう）」伝習館に2年以上通い、師範免許を取得。現在、法衣についての頑固な汚れはこの技術を使ってシミ抜きし、顧客に喜ばれている。

今後は全国への法衣の「発送売り上げ」による伸

びを見込んでいる。商圏の拡大先として想定しているのは「全国に5,000を超える日蓮宗寺院のお坊さん」だ。日蓮宗僧侶は全国に約8,000人。近畿以西は京都、奈良などに専門のクリーニング店があると想定しても、東日本だけでその顧客数は数千人単位となる。

既に口コミなどで同店の存在を知り、問い合わせを受けたり法衣が送られてきたりしている。中には久遠寺での行事の際に同店に法衣を持ち込み、仕上がり品の返送のみ宅配を利用する顧客もいる。以前は処理能力の限界から依頼を辞退することもあったため、まずはニーズを取りこぼさないことから始める考えだ。

「ホームページを開設し、日蓮宗の冊子に当店の広告を掲載するなどして周知を図っていきます。これからも、法衣にとって安全で、より良い仕上がりのクリーニング方法を追求し続けていきたいです」。祖父や父の背中に追いつくために、望月さんの挑戦は続く。



● 薄く繊細な生地できて
いる法衣



● クリーニングもちづきの
スタッフの皆さん